

令和8年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会議事録

日 時：令和8年7月24日（金）午前10時～午前11時

場 所：へきなん福祉センターあいくる 第1会議室

出席者：審査委員6名【神谷直樹、土屋裕子、鳥居多佳子、小関和夫、
角谷恵里子、山本貴史】

：事務局 4名【山田昌宏、齋藤静絵、菅沼真希江、岡本淳志】

：説明者 3名【市民活動センター 野嶋、古鷹】
【愛知ネット 内藤】

欠席者：なし

傍聴者：なし

会議内容

1 あいさつ（神谷委員長）

2 議題

(1) 令和7年度市民活動センター事業報告及び決算について

野嶋センター長より説明。

審査委員：総利用者数というのは施設の利用者という事か。

説 明 者：印刷室を利用された方、相談に見えた方、そしておしゃべりコーナー等
市民活動センターに係る施設を利用した日々の利用者をカウントしてお
ります。

審査委員：相談件数の内訳はどうだったのか。

説 明 者：相談件数が89件という中、内訳を分析してみたところ、一般的な相
談が4割、防災を始めとしたボランティア活動について相談が4割、そ
の他が2割という状況でした。このような中、7年度の相談件数につい
て、町内会、老人会といった地域の団体の皆さんからの相談がなかった
ところをどう増やしていくかが今後の課題であるかと思っているので、
そこはしっかりと課題として受け止め取り組んでいきたい。

審査委員 今後の課題についてはセンターだけではなく市と協力しながらやられて
はいかがかと思う。

審査委員：使用賃借料の予算額において、決算額に比べて少額となったのはなぜか。

説明者：年度途中でリース期間が切れ、再リース契約をした結果、生じた費用が少なくなったため、このたびの実績の金額となった。

審査委員：事業収入の実績が予算に対して少ない。愛知ネットさんはセンターの管理を引き受けるときに自力で収入を稼ぐ力を発揮するとされていたが、現実にはこのような乖離が起きている。この乖離とて実際に指定管理者として収入を得ていくということについてどう考えているのか。

説明者：この点については真摯に受け止めており、課題と考えている。今後について令和8年度の事業の説明においても触れるが、地縁組織のサポートの強化を行う取り組みをおこなっていくが、その中で必要な経費について助成金を得たりして収入を増やしていきたいと考えている。

(2) 令和8年度市民活動センター事業計画及び予算について

野嶋センター長、愛知ネット 内藤氏より説明。

審査委員：センターさんが「AIを使ってこんなことができるよ」とかいろんなメニューを用意して待っているよりも、町内会長になった方にとっては、「こんなことができるよ」ということで情報を提供するために地区へ歩み寄られた方が良いのではないか。

何かできるのか分からないからセンターへ相談に来てくれないのではないかと思う。町内会はそもそも市民活動センターさんがどんなところか知らないと思う。持っているノウハウを表に出してほしい。一緒にやりましょうという姿勢でやってほしい。AIが文章作りを手伝ってくれるのもいいと思うので、そうしたところを町内会に知ってもらうように外へ打ち出すべきだと思う。

説明者：8月から地縁組織のサポートを開始するにあたり、来る8月4日開催の連絡委員幹事会にてチラシなどを使いながらこの取り組みを紹介し、正副幹事の皆さんとお話をしながら状況を知るという事から進めたいと考えています。地域特性もあるかと思いますので、まずはどういったことで困っているのか等をまずは把握し、サポートできればと思います。

なお、現在の私たちサポプラのホームページも決して見やすいものではないと思っていますので、マッチングの事例などを表に出して、今後の

私達サポプラではどんな相談ができるのかをパッと分かるようなホームページ作りを心掛けていく。

審査委員：町内会の役員は1年で交代してしまう。1年で変わってしまうから市民活動センターの存在も知らないまま、町内会組織を維持することによって一生懸命のまま終わってしまう。センターさんが年度の初めに説明に来てくださったと思うが、1回きりではなく、7月とか早い時期にセンターとしてフォローできることについて再度説明してくれたら、役員さん何かやろうかなという気持ちになると思う。

これが残り半年切ってくるとなると町内会長も「あと半年か」ということでセンターさんを使うということまで気が回らなくなると思う。そのあたりを今後心がけて説明をしてくれるといいと思う。

審査委員：市民活動センターの説明を、ここ何年も連絡委員の会で説明して下さっていると思うが、4月に説明されても町内会のことで頭がいっぱいで、どういった状況が分からないうちにセンターのことを説明しても頭に残らないのではないかなと思う。

しかし、少しずつ町内会の事情が分かれば、こうしたことを引き継いでくれる町内会長さんも増えてくるように思う。少しずつ説明の機会を増やしていくことも必要ではないかなと思う。

説明者：今年度は、町内会のサポートについての情報提供が8月となっている中ではあるが、これからの町内会の行事、年度末の員引継ぎ等において、音声で吹き込んだものを文字起こしする等はサポートとして有効な手段としてご紹介できる手段の一つだと思う。ただ、全治地区へいきなり展開することは難しいので、モデル地区を選んで進めてはどうかと考えている。

審査委員：センターさんがおっしゃるようにモデル地区で進めていただいて、どんなことができるのかを見てもらった方がいいと思う。その方がなじみやすいと思う。

審査委員：現在のいない講座の参加者の年齢構成について知りたい。

説明者：街づくりに興味のある30代から70代の幅広い年齢層の方に参加していただいている。

審査委員：いない講座についてだが、いつまでも同じことをやっているという

事ではないかと思うが、成果をどのように考えているのかを知りたい。

説明者：講座を行うと必ずアンケートを取っている。その中に講座についての感想、やってみたいところを聞いている。アンケートの結果を受け、にないん講座についてのスタイルを検討している。時代も変わる中で、続けた方が良い部分もあるかと思うが、変えるべきところは時代に合わせて変化させる必要があると考えている。

先ほどの説明でもお話したが、参加者の年齢層も幅広いので、新たなニーズを掘り起こせるようにしていきたいと考えている。

審査委員：いろいろな活動をしてみると思うが、これらの活動の案内方法について知りたい。

説明者：過去の講座の参加者でメールアドレスをおしえていただけた方にはメールで案内をしている。

なお、メールが難しい方は郵送にてチラシを送ったりしてご案内している。一般の方については広報へきなんに講座の記事を載せていただく他、インスタグラムなどのSNSを使ってご案内している。

審査委員：ホームページやSNSだけではそこにたどり着けないと情報が届かない。紙媒体だと情報が取れる方もいるので紙媒体での情報提供もしていただきたい。

審査委員：町内会のサポートについて8月から展開するとのことだったが、活動センター2人だけでは大変だと思われる中、マンパワーが必要必要だと思われるがどんな体制で取り込んでいくのかを知りたい。

説明者：センターの職員2人に加え、動員に関しては愛知ネット本部がサポートをする予定である。

審査委員：指定管理5年間での予算は決まっていると思うが、新たに人件費が発生するということではないということよろしいか。

説明者：新たに人件費を生じさせることはない。

審査委員：予算の中の一般管理費について聞きたい。過去においては愛知ネットの災害活動時の原資という説明もあったが、碧南市の活動センターにおけるこの一般管理費の予算の基準がどうなっているのか知りたい。

説明者：この一般管理費は予算においては間接費となるものである。これは愛知ネットの利益となるものではなく、愛知ネットのバックヤード代、つまり

全体の総務経費、税理士の費用等を受け持っている施設で案分し間接費という形で算出しているものである。

なお、この一般管理費は、1 年の事業費の 2 2 % であって一般管理費は 1 年の事業費の 3 0 % という N P O ルールブックの基準を下回る形で計上されている。

3 その他

＜特になし＞